

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターぼけっとクラブあしかが		
○保護者評価実施期間	R7年12月1日		～ R7年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	76名	(回答者数) 54名
○従業者評価実施期間	R7年12月1日		～ R7年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月1日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援センターのため、配置職員の職種が多岐にわたること、また、職員数が多いこと。	利用児の特性や年齢、また、支援の目標から、担当職員を決定している。	専門職(言語聴覚士)を配置しているため、ことばに関する悩みや相談があれば積極的に受けていく。
2	相談支援事業所が併設されているため、利用児保護者が相談しやすい環境であること。	保護者からの相談は、担当職員だけでなく、相談支援専門員も受けている。	日頃から保護者との信頼関係を築き、保護者が相談しやすい環境作りに励んでいく。
3	個別指導と集団指導があるため、保護者のニーズによって療育の方向性を定めることができ、的確な支援を行うことが可能である。	個別指導と集団指導では、行う療育の内容が異なるようなプログラムを立てている。	保護者や関係機関からの情報をもとに、内容を精査し、ニーズに答えられるような療育を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難訓練や保護者研修などの取り組みが周知されにくい。	掲示物やおたよりなどで当事業所の取り組みを周知しているが、PR不足であることが考えられる。	引き続き、掲示物やおたよりなどで当事業所の取り組みを周知する。また、HPに記載するなどして多くの方が目を通せるようにしていく。
2	療育の日時が保護者の都合に合わせにくい。	療育を行いたい、平日は仕事を休めないとの理由で、当事業所の利用が難しく、療育を見送られるケースがある。	毎週固定の曜日での利用が難しい家庭に関しては、不定期での利用を勧めている。送迎サービスを行うことはできないが、質の高い支援を行うことで当事業所のメリットを外部にPRしていく。
3	療育のプログラムが固定化し、支援の内容が画一的になりやすい。	ICT化が進んでいないため、空き時間に記録を書く時間が長くなっていることから、療育のプログラムを考える時間が少ないと推測される。	事業所のICT化を進め、職員の事務作業の時間を削減していき、支援の多様化を図っていく。